



# 公務員宿舎のこれまで、これから

～宿舎一斉廃止を考える～

2013年7月6日(土) 13:00-16:30 (12:30開場) 参加費無料・申込み不要

つくば国際会議場(エポカル)3階(つくば市竹園2-20-3) 中ホール300

※お車でご来場の際は近隣の有料駐車場(1時間220円)をご利用ください。近隣店舗への駐車はおやめください。

## プログラム

- 13:00-13:10 挨拶(清水一彦副学長・藤川昌樹社会システム工学専攻長)
- 13:10-13:20 趣旨説明(藤井さやか)
- 13:20-13:30 調査概要説明(山本幸子)
- 13:30-14:25 大学院生による調査成果発表
  - ・宿舎廃止による空間変化に関する分析
  - ・宿舎地区の住環境評価と防犯対策に関する分析
  - ・人口動向・施設需要・不動産市場への影響に関する分析
- 14:25-14:45 休憩
- 14:45-16:20 パネルディスカッション「公務員宿舎のこれまで、これから」
- 16:20-16:30 まとめとお礼(システム情報系社会工学域長大澤義明)

## パネリスト

### 葦原計画事務所所長・葦原敬氏

移転から都市化への移行期の経験と成熟社会の都市計画を考える立場から

### 日本開発構想研究所理事・小畑晴治氏

地域再生と防犯性を意識したまちづくりの立場から

### リビタ常務取締役・内山博文氏

地域資源の継承・活用を考える民間事業者の立場から

### 筑波大学システム情報系教授・谷口守氏

持続可能な都市計画を考える立場から

コーディネーター：筑波大学システム情報系准教授・藤井さやか

## シンポジウムの趣旨

筑波研究学園都市の建設が閣議了解されて今年で50年目になります。「陸の孤島」といわれた筑波研究学園都市には約7700戸の公務員宿舎が建設され、移転生活を支えてきました。建設から約40年間に宿舎地区では緑豊かな都市景観やユニークな教育環境が育まれ、つくばのアイデンティティ形成に寄与してきましたが、近年、建物老朽化や空室増加が進み、6年をかけて約2000戸の宿舎を順次廃止し、まちが更新されつつあります。

このような中、昨年11月末に財務省は全国の公務員宿舎の削減計画を発表し、つくば市内では追加で約2500戸の宿舎が2年以内に廃止されることになり、大きな影響を及ぼすと予想されます。

そこで、筑波大学システム情報系社会工学域都市計画分野では、廃止対象を含む現存宿舎約5000戸の居住者アンケート調査を含む調査研究を実施しました。この調査報告とこれからのつくばのまちづくりを考えるシンポジウムを開催します。ぜひご参加ください。

## 調査主体

- ・平成25年度科学研究費基盤研究(A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(研究代表者大澤義明)
- ・筑波大学システム情報工学研究科社会システム工学専攻(大学院修士課程)開講「都市空間のフィールドワーク演習」
- ・筑波大学 社会貢献プロジェクト/エコシティ推進経費事業

お問い合わせ

筑波大学システム情報系助教・山本幸子 sachiko@sk.tsukuba.ac.jp

